



©Yuki Asada

くまの笑顔は、女性の誇り

1,200万人が住むフィリピン・マニラ首都圏から出たごみは、パヤタスをはじめとするごみ処理場に積み上げられる。パヤタスで再利用できるものを集め、それを売って生計を立てる人は4,000人以上。がれきの山のそばには、バラックの家が立ち並ぶ。2000年にはがれきが崩れ、200人以上が下敷きとなって亡くなる惨事も起きた。

ごみ処分場に頼らない生活はできないものか。地元の女性たちと愛知県の認定NPO法人アイキャンは、新たな収入源を得るための試行錯誤を始めた。目を付けたのは、針と糸だ。

バッグやポーチのような布小物から、手触りの良い人形まで。さまざまな商品を生み出す作業所は、いつしか女性たちが悩みを持ち寄り、話し合う場ともなった。今

では一つの独立組織として、商品の企画から品質管理、組織の運営まで、自分たちで取り仕切っている。仲間を増やすため、外部の女性に縫製を教えることもある。

フィリピン南部の伝統的な織物の模様を生かす「しあわせのくま」は、女性たちに共感した日本のデザイナーが考案。女性たちがこれまでに身に付けた技術を生かして、一つ一つ手で縫い上げている。

アイキャンの吉田文さんは、「女性たちの縫製技術も向上し、自分に自信が持てるようになったと言ってくれます」と語る。

日に日に大きくなるごみの山。パヤタスの女性たちはこの環境から独立することを目指している。「弱いと思われている私たちにもできることがあると、知ってもらいたいのです」と話す彼女たちの手から、今日も愛らしいぬいぐるみが生まれる。



現在、参加している女性は10人ほど。安全な仕事で生計を立てられる女性を増やすのが、彼女たちの願いだ

★フィリピンの「しあわせのくま」を1人にプレゼント!
→詳細は38ページへ

★パヤタスの女性たちが作った品物は、国内のフェアトレードショップやイベントのほか、以下のホームページからも購入できます
http://www.ican.or.jp/j/projects/fairtrade_sales.html

